日本広報学会「スポーツ広報の現状と可能性」研究会

2005～2006年度報告書

2008年1月

主査：長岡大学　講師　伊吹勇亮　（編）

はじめに

本報告書は、日本広報学会「スポーツ広報の現状と可能性」研究会の、2005 年度から2006 年度にかけての 2 年間の活動内容をまとめたものである。

日本広報学会におけるスポーツ広報関連の研究会は、1999 年度から貴多野乃武次先生（阪南大学）主査による「企業スポーツ広報」研究会が 2 年間、2001 年度から芝田正夫先生（関西学院大学）主査による「企業とスポーツの関わり」研究会が 2 年間、2003 年度から川戸和英先生（大同工業大学）主査による「大学広報とスポーツ」研究会が 2 年間と、本研究会の開始前に既に 6 年間の蓄積があった。その蓄積の上に、「スポーツ広報の現状と可能性」2 年間の活動がある。従来の研究会がスポーツを通じた広報をその主眼としていたのに対し、本研究会はスポーツ組織そのものの広報について見ていくことを意図している点が特徴であると言えよう。

過去の議論で、大きく、次の 2 点が明らかになってきたように考える。

1 つめは、CSR を重視する流れとも呼応するが、広報の対象が直接的な顧客（大学の場合は入学志願者）だけでなく、例えば地域向け広報のような、ステイクホルダー全体をその対象とした広報が増えてきており、スポーツが関連する広報においてもその流れは変わらない、という点である。この分野における最近の注目事例は、早稲田大学による WASEDA CLUB の設立である。

2 つめは、従来の議論では、スポーツを企業や大学が広報を行うメディアとして位置づけ、そのために自組織内にスポーツクラブを保持していたわけであるが、この図式がもはや限界にきており、特に企業スポーツでは廃部が相次いでいる、という点である。このことは、メディアとしてのスポーツの価値をもう一度冷静に考え直す必要があることを示している。大学においても、体育会系スポーツ部への推薦入学がもたらす弊害が指摘されはじめている。また、スポーツ本来の目的等を鑑みても、従来とは違う形でのスポーツと企業なり大学なりとの関係が模索されなければならないことをも示していよう。

従来の研究会でも活躍されてきたメンバーを中心に声をかけ、スポーツ界・企業・大学で実際に広報業務に携わっておられる方の講演や、メンバーによる研究発表を通じて、スポーツ組織が広報主体としてステイクホルダーとコミュニケーションを行う際の理論的基礎を提供することを最終的な目標として活動を行ってきた。全 10 回にわたる研究会の詳細は次の通りである。

2005 年度第 1 回　　2005 年 7 月 2 日（土曜日）1500～1700

＊テーマ：「スポーツ広報の現状と可能性」研究会の進め方について

＊提案者：伊吹　勇亮（長岡大学）

2005年度第2回　　2005年9月24日（土曜日）1400～1600
＊テーマ：大学スポーツの再構築
＊講　師：古川　明　氏（関西アメリカンフットボール協会　理事長）

2005年度第3回　　2005年11月26日（土曜日）1300～1500
＊テーマ：CSRとスポーツ経営
＊講　師：相原　正道　氏（筑波大学大学院）

2005年度第4回　　2005年12月17日（土曜日）1530～1730
＊テーマ：プロ野球の地域貢献への取組み
＊講　師：田尾　安志　氏（東北楽天ゴールデンイーグルス　前監督）
＃同志社大学スポーツ政策公開トークとして開催
＊テーマ：ビジネス資産としてのスポーツ　－「評価」の観点から－
＊講　師：横山　勝彦　氏（同志社大学）
石井　　智　氏（同志社大学大学院／大阪ガス株式会社）

2005年度第5回　　2006年3月11日（土曜日）12日（日曜日）
於：1日目…新潟スタジアム「ビッグスワン」
2日目…朱鷺メッセ303会議室
＊テーマ：アルビレックス新潟の成功要因とはなにか
＊講　演：アルビレックスとレッズの地域浸透戦略の違い
＊講　師：大野　貴司　氏（横浜国立大学大学院）
松本　和明　氏（長岡大学）
＃1日目にアルビレックス新潟の試合を視察

2006年度第1回　　2006年5月28日（日曜日）1630～1830
＊テーマ：京都パープルサンガの地域戦略　－スタジアムの必要性－
＊講　師：梅本　徹　氏（(株) 京都パープルサンガ　社長）

2006年度第2回　　2006年7月29日（土曜日）30日（日曜日）
於：1日目…札幌市厚別公園競技場
2日目…北海道建設会館B会議室
＊テーマ：スポーツビジネスの顧客・スポンサー獲得戦略
＊講　演：コンサドーレの戦略と今後のスポーツビジネス
＊講　師：水澤　佳寿子　氏（コンサドーレ札幌　元取締役）
＃1日目にコンサドーレ札幌の試合を視察

2006年度第3回　　2006年10月8日（日曜日）1500～1900

＊テーマ：千葉ロッテ城下町“幕張”における市民活動

＊講　師：小野　豊和　氏（東海大学）

＊テーマ：ファイナル・スポーツとしての競馬

＊講　師：新村　佳史　氏（HUDDLE TIME）

2006年度第4回　　2006年12月10日（日曜日）1310～1610

＊テーマ：国際スポーツイベントと地域振興
－ラグビーワールドカップ招致を考える－

＊講　師：森　喜朗　氏（元首相／日本ラグビー協会　会長）
平尾　誠二　氏（神戸製鋼ラグビー部　GM）
林　敏之　氏（NPO法人ヒーローズ　代表）
大八木　淳史　氏（神戸製鋼ラグビー部　アドバイザー）
真山　達志　氏（同志社大学）

＃同志社大学スポーツ政策シンポジウムとして開催

2006年度第5回　　2007年2月25日（日曜日）1700～2100

＊テーマ：２年間の研究会を振り返って（座談会）

また、この研究会での議論をもとにして、様々な研究成果も世に出た。以下はその一部である。

論文、等

相原正道（2006）『Jリーグチームにおける CSR 経営戦略の研究』，筑波大学大学院体育研究科修士論文

石井智（2006）「スポーツの価値と企業政策－『CSR』の視点から」，『同志社政策科学研究』，第8巻第1号, 135-147ページ

伊吹勇亮（2006）「コーポレート・コミュニケーションの大学広報への応用」，『大学と学生』，第36号, 24-32ページ

伊吹勇亮（2006）「文化産業におけるコーポレート・コミュニケーション」，『PRIR』，100-101ページ

相原正道・石井智・伊吹勇亮（2007）「企業における CSR 戦略とスポーツ－企業広報の視点から－」，『広報研究』，第11号, 32-42ページ

学会報告、等

相原正道・石井智・伊吹勇亮（2006）『企業における CSR 戦略とスポーツ』，日本広報学会第 12 回研究発表大会，於：江戸川大学，2006 年 11 月 19 日

石井智・横山勝彦（2006）『企業戦略におけるＣＳＲとスポーツの連関－その実現のモデル化を中心に－』，日本広報学会第 12 回研究発表大会，於：江戸川大学，2006 年 11 月 19 日

本研究会を通じて明らかになったこと、その詳細は本報告書所収の各論文や座談会記事を参照いただくとして、全体をまとめると次のようになる。

スポーツ組織は、当たり前だが、社会の中に存在している。社会の中でどのような位置に存在し、どのような役割を果たすのか、この点が明らかにならなければ、当該スポーツ組織、ひいてはスポーツそのものの存在価値が疑われることとなる。このことに対応できずに衰退の道を歩んでいるのが廃部の続く企業スポーツであると考えることもできよう。そこで、スポーツ（組織）が社会の中でどのような存在であるかを明らかにすること、いわば「スポーツの持つ価値の可視化」が、論点となる。スポーツ広報の中心的課題は、如何に伝えるべきかという how-to よりも、むしろ、何を伝えるべきか、すなわち、何がスポーツの持つ価値なのか、何が当該スポーツ組織の持つ価値なのかという、what-to の部分を明らかにすることであると言える。

本研究会でも、CSR の視点、地域振興の視点、市民活動との連携の視点など、様々な視点からこの論点に対してのアプローチがなされた。これは、最初から明らかになっていた論点を各人の視点から論じたというわけではなく、最先端の実践家や研究者が考えていることを集めると、論点が自ずと浮かび上がってきた、ということである。

このことから考えられる次なる課題は、論点として明確になった「スポーツの持つ価値の可視化」を正面から捉え、これをどのように実現していくかということになる。本研究会に続く研究会として、横山勝彦先生（同志社大学）主査による研究会が 2007 年度より開始しており、ここでは「情的資産の可視化」がメインテーマとなっている。本研究会で浮かび上がってきた課題は、横山主査の下で明らかになっていくものと考える。

最後に、御礼とお詫びを申し上げたい。本研究会を開催するにあたり、各界各層の多くの皆様のご協力をいただいた。また、研究会メンバーのみなさんも、未熟そのものの主査を暖かく見守ってくださった。厚く御礼を申し上げる。また、原稿が 2007 年の梅雨明けには全て揃っていたにもかかわらず報告書の発刊が遅れたのは、本務校での雑用にかまけていた主査の責によるところである。衷心よりお詫び申し上げたい。

本研究会における成果が今後のスポーツ広報を考える上での一助となれば幸いである。

2008 年 1 月 31 日

主査　伊吹勇亮

目　　次

はじめに

企業におけるスポーツ価値の「評価」についての一考察
同志社大学大学院　石井　智
同志社大学　横山勝彦　……　1

千葉ロッテ城下町“幕張”における市民活動
東海大学　小野豊和　……　8

スポーツ報道におけるテレビメディアの過剰報道について
大同工業大学　川戸和英　……　１７

教育機関における望ましいスポーツ広報　－高等学校運動部活動を視点に－
同志社大学大学院　黒澤寛己
同志社大学大学院　榊原大輔
同志社大学　横山勝彦　……　２７

スポーツの「本質」とメディア・広報
関西学院大学　芝田正夫　……　３２

ファイナルスポーツとしての競馬　―ドバイが試みる実験―
HUDDLE TIME　新村佳史　……　３６

スポーツスタジアムの公共財としての価値について
～非利用価値の存在とその価値の評価について～
同志社大学大学院　松野光範　……　４０

日本広報学会「スポーツ広報の現状と可能性」研究会　座談会
長岡大学　伊吹勇亮　……　６５